

ねことオルガン

今西祐行＝文　久保雅勇＝え



ねことオルガン

今西祐行・文 久保雅勇・え



創作幼年童話＊小峰書店

いま にし すけ ゆき
今 西 祐 行

ねことオルガン

小峰書店 昭和44年(1969)

79 P 26 cm (創作幼年童話 5)

基本カード記載例

★作者紹介 いま にし すけ ゆき
今 西 祐 行

1923年大阪府に生まれる。早稲田大学仏文科卒業。日本児童文学者協会々員。「そらのひつじかい」(泰光堂刊)によって児童文学者協会新人賞受賞。その他の著書「なぜなぜ話12ヵ月」(実業之日本社刊)「青い鳥」(泰光堂刊)「世界のむかしばなし」(金の星社刊)



創作幼年童話

ねことオルガン

定価 330円

昭和44年4月20日 印刷

昭和44年4月30日 発行②

著者 © 今 西 祐 行

発行者 小 峰 広 恵

表紙印刷 斎 藤 印 刷 所

本文印刷 中教印刷株式会社

製本所 小高製本工業(株)

写 植 上田写真製版所

落丁・乱丁本は
お取かえします

発行所 株式 小 峰 書 店
会 社
東 京 都 新 宿 区 四 谷 舟 町 六
振 替 東 京 195544 T E L 357局 3521 代表

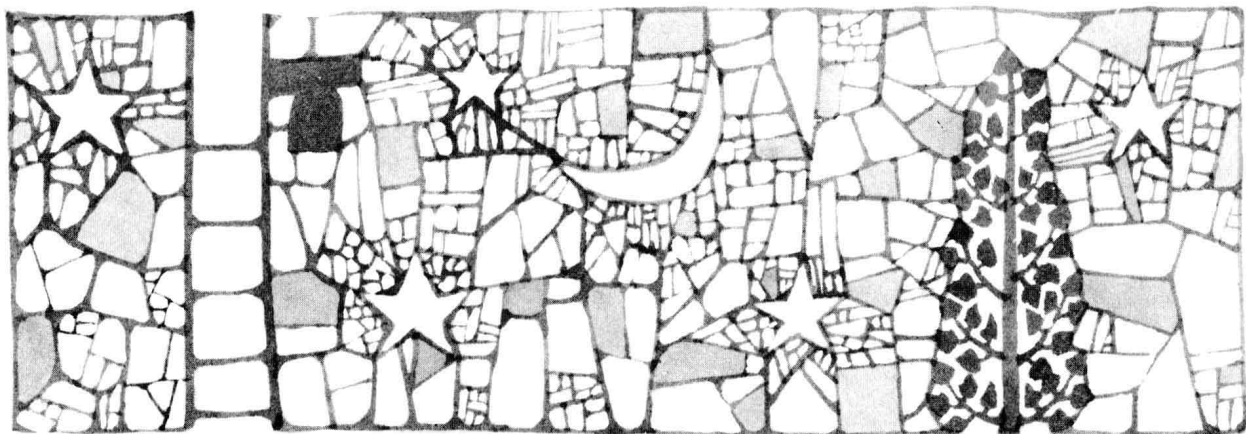
8393-1705-2349



はじめに

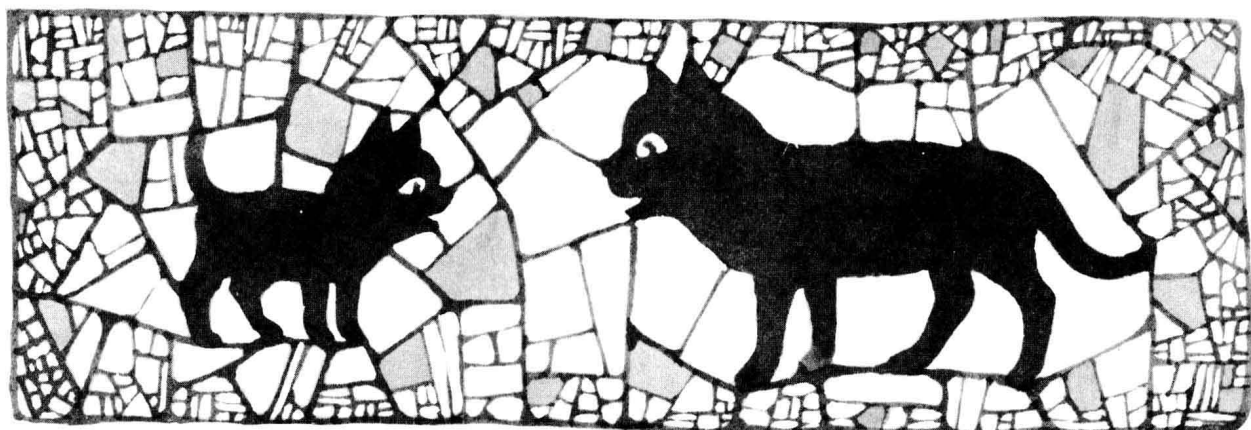
今西祐行

わたしの いえの ちかくに 玉川上水と
いう 川が あります。その どてに、よく
子ねこが います。だれかが すてていくの
です。その 子ねこたちが どうなっていく
かを かんがえと、いつも むねが いた
みます。ある日、オルガンを ひいていると、
そんな 子ねこの 一ぴきが、ひよっこり
まどから かおを だしました。
「どうして ここまで やつてきたのかしら。」
そんな ことを かんがえながら、この
おはなしを かきました。
ねこを 一ばんはじめに かつたのは エ
ジプトの 人です。オルガンを はじめて
つくったのも 三千年ほどむかしの エジプ
トの 人です。ねこと オルガンは そんな
大むかしから なかよしだったのです。おは
なしに かんけいのない ことですが、そん
な ことも おぼえておいてください。

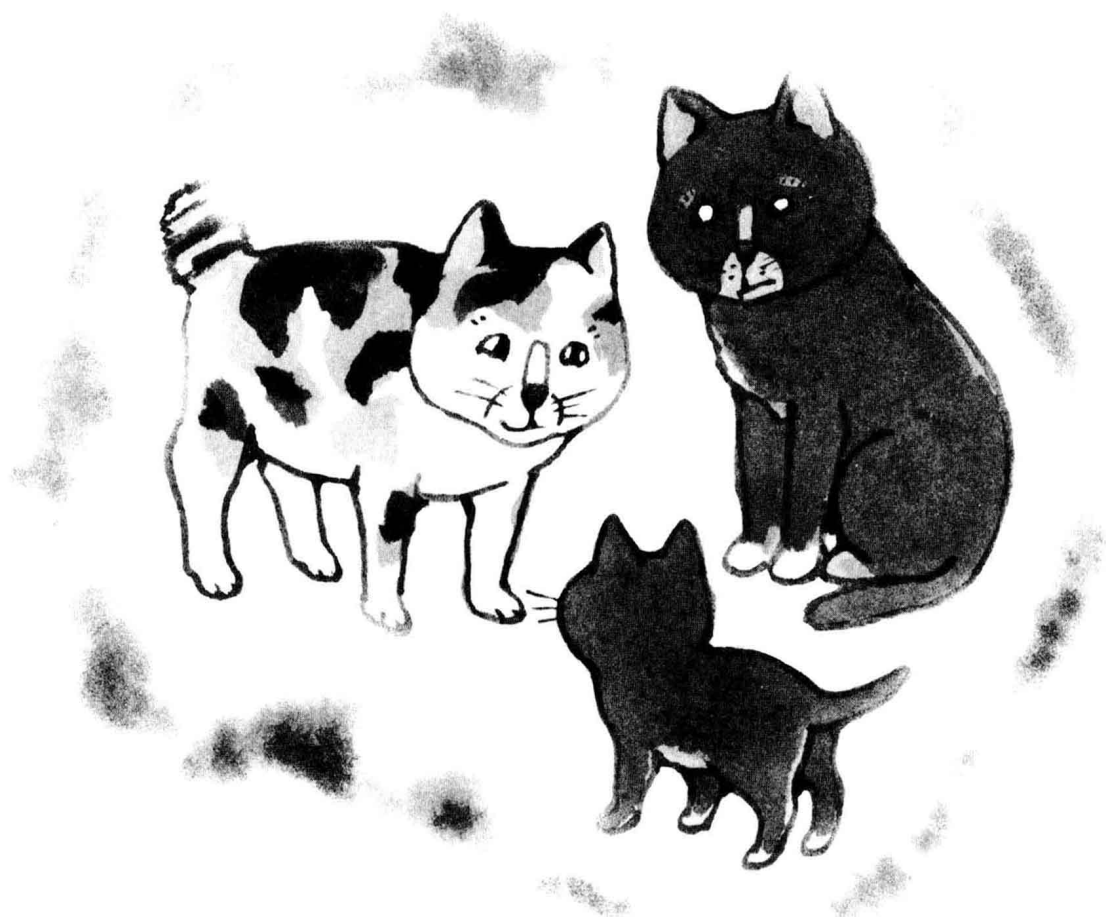


もくじ

つゆくさも うたっている……	4
なんにも かなしがることは ない……	13
のらおじさんの むかしのこと……	17
かあさんの うたを さがしに……	22
かつおぶしの うた……	24
うるさいやつに であつたぞ……	30
のらおばさんの おせつかい……	34
おさきに しっけいされた サンマ……	40
きんの おさかなを とり……	46
のらおばさんの うち……	51
さかなやの 大げんか……	59
かけつけた おまわりさん……	66
この子だけは しあわせに……	71
オルガンの きこえる家……	74



ねことオルガン



今西祐行 文 久保雅勇 え

1 つゆくさも うたを うたっている

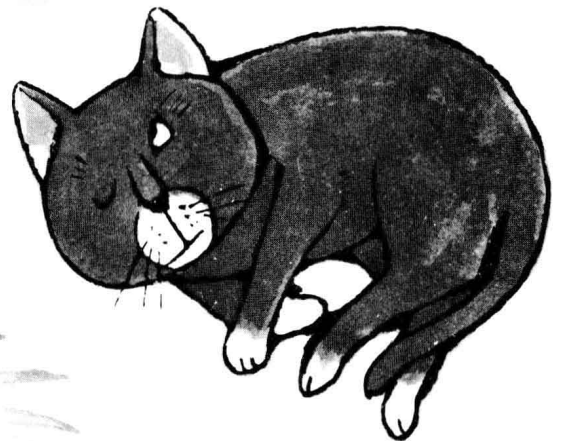
のらおじさんは、きょうも 町はずれの
小川^{おがわ}のどてで、ひるねを していました。
すると、どこからか ニイニイと 子ねこの
なくこえが してきました。

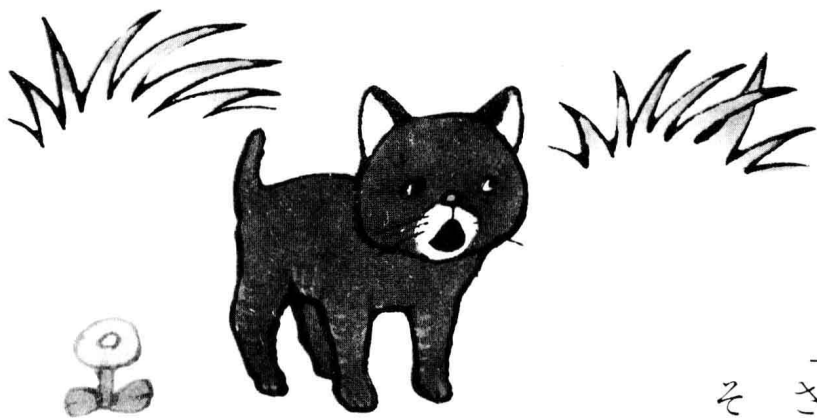
「うるさいな。ひどが せっかく いいきもちで
ねむっているのに。」

のらおじさんは ねたまま 大きな ^{おお}あくびをして
ごろんと 一つ ひっくりかえると、また 目^めをつむりました。

だが、なきこえは、いっこうに やみそうも ありません。

「チエツ」のらおじさんは しかたなく のそりのそりと おきあがって、
こえの きこえない くさむらで、また よこに なりました。





ところが、しばらくすると、やっぱりなきごえがちかずいてきます。
「うるさいな。だれだい　こんなところに　子ねこを　つれてきたのは。」
のらおじさんは　とうとう　あきらめて、たちあがりました。それから
おもいっきり　せなかを　まるくして、のびを　しました。

「さてっと、そろそろ　町^{まち}へ　かえるとするか。」

そんな　ひとりごとを　いいながら、どてみちを　あるきだし
ました。

すると、やっぱり　ニイニイという　こえも　あるきだし
たようです。

ふりかえってみると、みたこともない　子ねこが、よ
ちよちと　ついてくるのです。

のらおじさんが　たちどまると、子ねこも　たちど
まって、きよとんと　こちらを　みています。ある

きだすと、子ねこも あるいてきます。

「フーツ」。

と、ふりかえるなり のらおじさんは おどしてみました。

子ねこは びっくりして、くさむらに あたまだけ かくしました。

その かつこうが あまり おかしかったので、

のらおじさんは おこるきも しなくなりました。

「おいおい、おちびさん、それは なんの

まねだい。おれの あとばかりつけて、

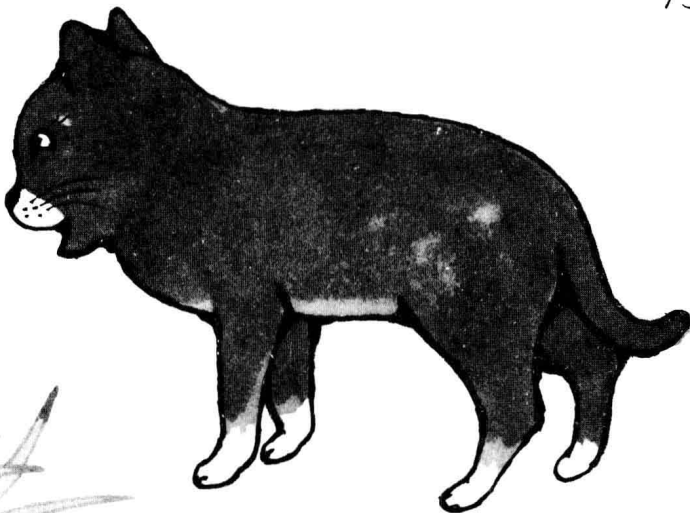
どうしたって いうんだい。」

すると、子ねこは また おも

いだしたように、ありったけの

こえを しぼって なきだし

ました。



「はーん、すてられたんだな。」

「そうだろう?」

「かあさんだよー、かあさんだよー。」

子ねこは やっと 口を ききま
した。

「かあさんが すてたのかい。」

「ちがうよー。かあさんが いないんだよー。」

かあさんとおもったら、知らない おじさんだ
ったんだよー。」

「なんだ。おれを かあさんと まちがえたって
いうのかい。」

「かあさんどこへ つれてってよー。」

「かあさんは どこに いるんだい。いるどこ
しってるのかい。」

「しってたー、たのんだり しないよー。」



「なかなか なまいきな おちびだな。ひとに なきついておいて、いば
ってやがる。おまえさんの しらない ところへ、どうして おれが つ
れていけるかね。」

のらおじさんが そう いうと、またまた 子ねこは なきだしました。
「ああ よしよし、わかったよ。すてられた ときは、そりゃあ かなし
いもんだ。おれも そうだったから よく わかる。だが、ないてばかり
いたって、しょうがないぞ。」

「おじさんも すてられたの？」

「そうさ、すてられなきや いまごろ、こんなところで のらのらなんか
してないさ。」

「のらのらして、なに してたの？」

「うるさいね おまえさんは。いいかい、ひるねをしたり、うたを きい
たりしてたのさ。そしたら おまえさんに じゃまされたってわけさ。」

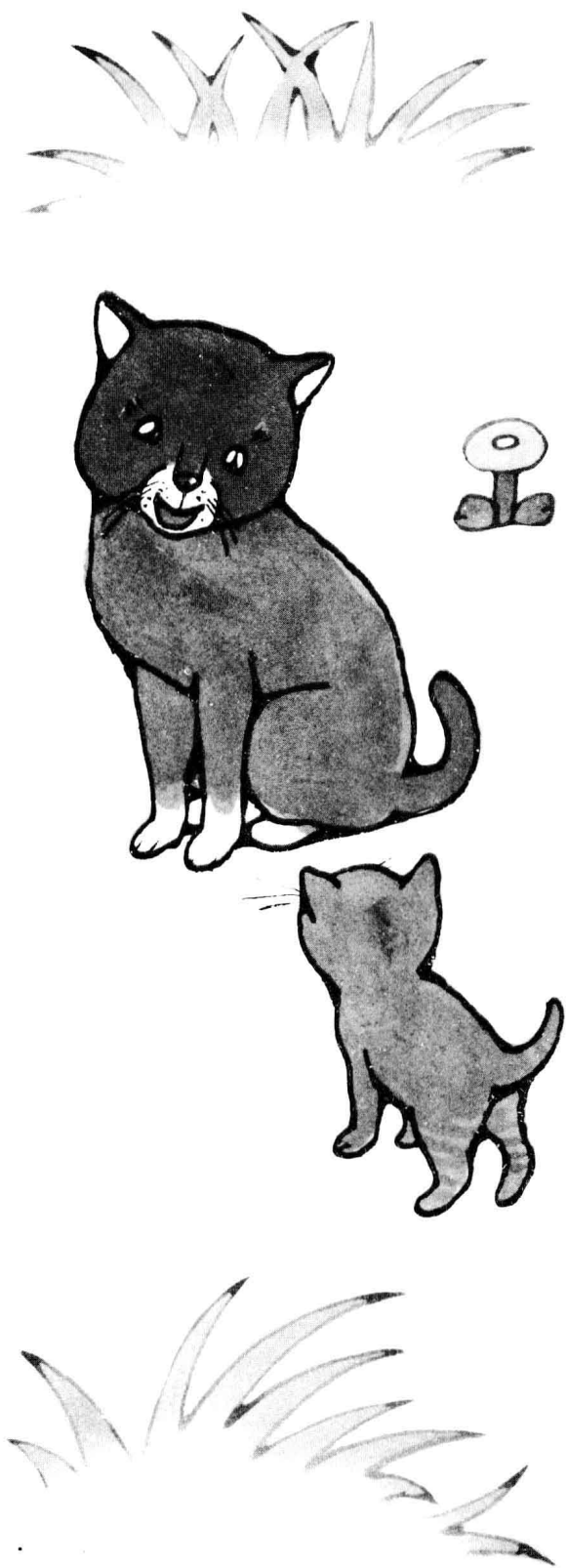
「うた？」

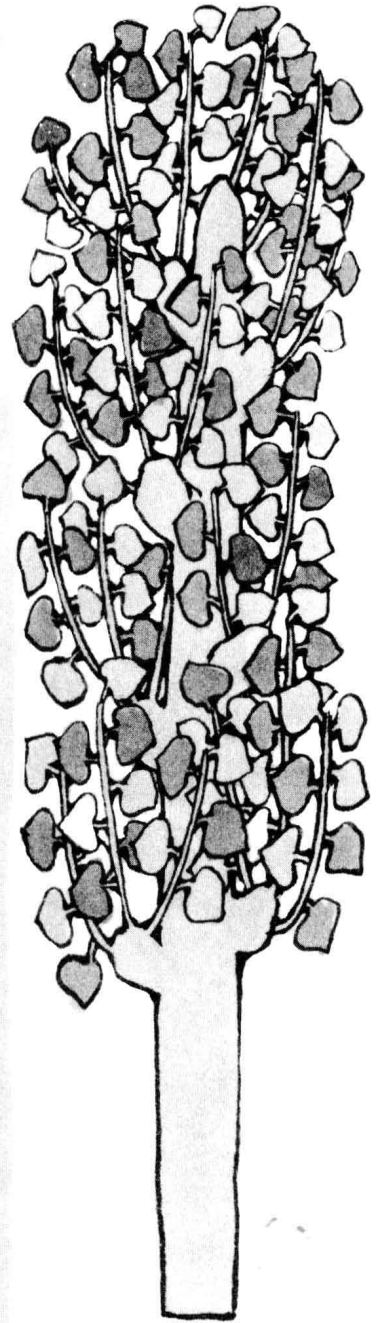
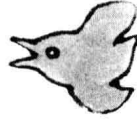
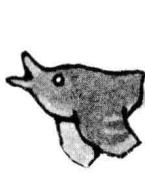
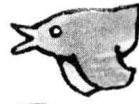
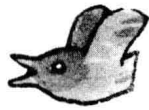
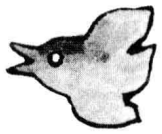
「ああ、うただよ。うたを きいてると、いつも たのしくなる。」

「なんの うた？ ぼくには なんにも きこえない。」

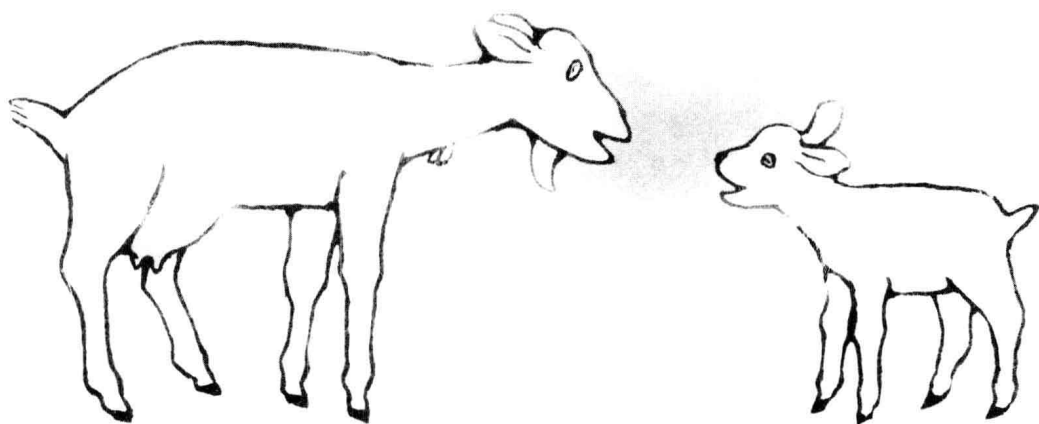
「ないてばかり いたんじゃ きこえないさ。いいかい、じっと 耳を
すましてごらんよ。いろんな うたが きこえてくる。」

のらおじさんは そういって ぐるっと あたりを みまわしました。





小川^{おがわ}の どてには、二ぼんの たかい ポプラの木^き
が たっていました。その 一ぼんの ねもとには
やぎのおや子^こが つながれていました。
のらおじさんは うたうように いいました。
「やぎさんが うたってる、
メヘヘン メヘヘンってな。
ことりが うたってる、
チュリ チュリ チュリチュリチュリってな。
みつばちも うたってる、



ミュー ミュー ミュー。

つゆくさも うたってる、

「????????????」

と、ここで のらおじさんは こまってしまいました。

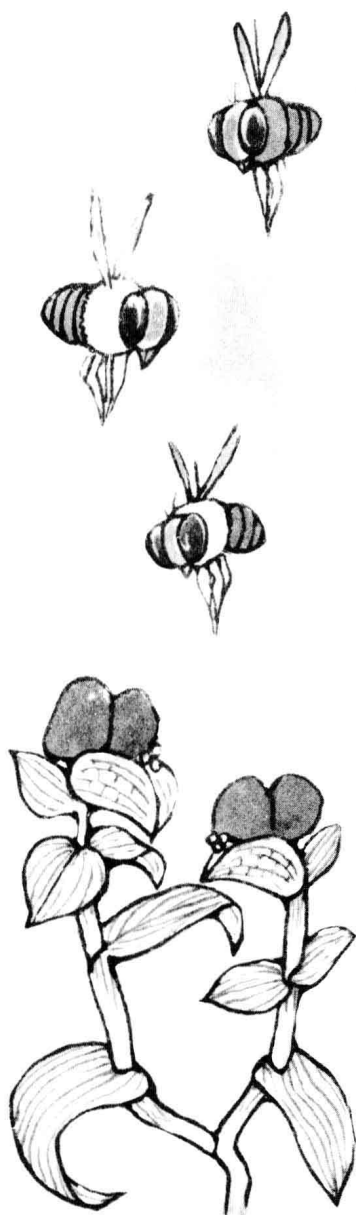
小さな ^{みずいろ} かわいい 水色の つゆくさも、たしかに

なにか うたっているとおもったのですが、さて、

なんて うたっているのか ^{くち} 口にすることが できま

せんでしたから。

「うそだーい。おじさん つゆくさなんか うたわな



いよー」。

子ねこは すぐに いいました。

「うそなもんか。うたってるんだ。

どんな 花^{はな}だって うたってるん

だよ。なきむしの 耳^{みみ}に きこえ

ないだけさ。わしの 耳^{みみ}には ち

やーんと きこえる。小さな 小^{ちい}

さな こえだがね。つゆくさだっ

て、なでしこだって、うたっているのさ」。

そう いわれると、子ねこも そうかなと おもいました。

子ねこは じっと 耳^{みみ}を すましてみました。それから、つゆくさの花^{はな}

に 小さな はなさを くつつけてみました。

かすかな かすかな においが しました。



(ああ、これが きつと つゆくさの うたなんだな。
子ねこは そう おもいました。

2 なんにも かなしがる ことはない

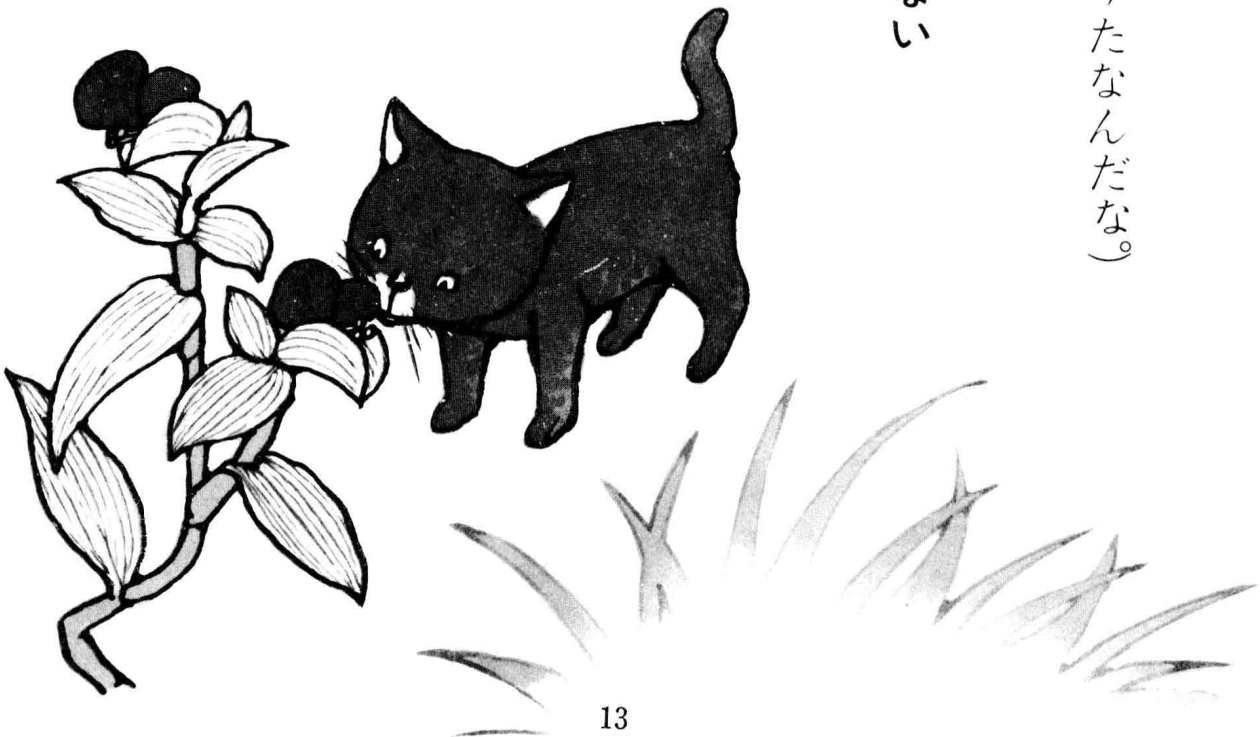
「おじさん、もっと いろんな う
た おしえてよ。」

子ねこは すっかり げんきを
とりもどして いいました。

「おしえてやるども。そうだな、
じゃあ こんどは 木のうただ。

さあ おれに ついといで。」

のらおじさんも なんだか
うれしくなりました。そして



やぎの つないでないほうの ポプラ
の木に、すばやく のぼりました。
のらおじさんの すがたは、すっぽ
り ポプラのはっぱのなかに かくれ
てしまいました。

「ほら、はやく おいでよ。」

はっぱの なかから こえが しま
した。

「どこに いるの？ みえないよ。」

「ここだよ。うーんと いきおいつけ
て、かけのぼるんだ。」

のらおじさんが、こんもりしげった
はっぱのなかから かおを だして

